

MACF礼拝説教要旨は

2020.10.25

「すべてのことが益と」

ローマの信徒への手紙8章

8:28 神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。

8:29 神は前もって知っておられた者たちを、御子の姿に似たものにしようとあらかじめ定められました。それは、御子が多くの兄弟の中で長子となられるためです。

8:30 神はあらかじめ定められた者たちを召し出し、召し出した者たちを義とし、義とされた者たちに栄光をお与えになったのです。

++++

1) 万事が益となるように

新改訳聖書ではこう訳されています。

8:28 神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。新共同訳聖書では「万事が益となるように共に働く」というふうになっています。

人生にはいろいろなことがあります。神様がご計画をたて、神様が私たちの人生の中に「共に」働かれて、最終的には神様にとっても、私たちにとっても「益」となるのだとパウロは語ります。

しかし、これは、私たちは絶対に失敗しないとか、絶対にすべてが思い通りになるということではありません。

前の節には「8:27 人の心を見抜く方は、“霊”の思いが何であるかを知っておられます。“霊”は、神の御心に従って、聖なる者たちのために執り成してくださるからです。」とあり、祈ることさえ言葉にできないような悩みを経験することもあるのです。

2) 計画や段階が存在することを認める

神様は、私たち一人ひとりに対して計画を持っておられます。

私たちを作り替え、あるいは練り直し、神様の心に近い存在として生かそうとしておられます。

29節には「御子の姿に似たものにしよう」とあり、「召し出し」「義と認め」

人生を変革させながら取り扱ってくださろうとしていることがわかります。

私たちは本当に「待つことが苦手」です。

エレベーターや道路の信号でさえ待てない気持ちになることがあります。

神様は、私たちを日々、成長させ、気づかせ、御子に似たものとさせようとしておられます。

一気にそこに到達するわけではありません。

詩編1篇には「1:1 いかにかに幸いなことか神に逆らう者の計らいに従って歩まず罪ある者の道にとどまらず傲慢な者と共に座らず

1:2 主の教えを愛しその教えを昼も夜も口ずさむ人。

1:3 その人は流れのほとりに植えられた木。ときが巡り来れば実を結び葉もしおれることがない。その人のすることはすべて、繁栄をもたらす。」とありますが、ここには「ときが巡り来れば」とあります。

新改訳では「時が来ると実がなり、その葉は枯れない。」となっています。

そうです。

「時が巡り来れば」「時が来ると」実りを味わうことになるというのです。

それまでは、なぜこんなことが起こるのかわからない、とか、どうして私だけがこんな思いをしなければならぬのかとか、不満や怒り、憤りさえ感じることもあるのでしょ。

それらのうっぶんも含めて、聖霊は父なる神様の前にとりなしてくださいませ。

そして、時が来るのを待たなければなりません。

3) 「無駄」はなく「益」となる

8:28 神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。

私たちの人生には無駄はないと言われてしています。

大木は大風に吹かれて揺さぶられれば揺さぶられるほど根が深くなり、地面にしっかり根付いてますます強くなると言われます。

困難や試練、それは目に見えない部分を鍛えるためかもしれません。

私たちは人生の一場面や出来事を「点」として見る癖があります。

「あの時、あの人はこんなことを言った」「あの時、私はこうだった」という点。ところが、振り返ってその点を今の状況につなげて「線」で見ると見方や意味が変わってくることに気づきます。

あのことがあったので、今がこうなのか、とか、あのことをきっかけにして、そ

の次にはこういう出来事につながったとか。点で見るだけでなく、その後の出来事、その後の点とつなげて見るのです。そして、今現在まで、つなげて見て欲しいのです。

そうすると、今ある状況のために、あの過去の出来事が必要だったこととか、今の状況のためにあの点の出来事がきっかけになっていたとか、わかります。そして「時」を人生の軸の中におけるようになると、神の介入に敏感になれるのです。

神は間違いなく「時の中で出来事を熟成させ、きっかけを提供し、立ち直るための出来事を用意してくださいます。文字通り人生を振り返ると「益と変えられた出来事」の多さに驚かされるのです。

パウロはテサロニケの人たちにこう書き送りました。

「神が全てを益としてくださると信じている」わたしたち一人一人に向かったの大切な言葉です。

テサロニケの信徒への手紙第一5章

5:14 兄弟たち、あなたがたに勧めます。怠けている者たちを戒めなさい。

気落ちしている者たちを励ましなさい。弱い者たちを助けなさい。

すべての人に対して忍耐強く接しなさい。

5:15 だれも、悪をもって悪に報いることのないように気をつけなさい。

お互いの間でも、すべての人に対しても、いつも善を行うよう努めなさい。

5:16 いつも喜んでいなさい。

5:17 絶えず祈りなさい。

5:18 どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。

そうです。「神があなたがたに望んでおられる」ことであり、その神が「万事が益となるようにわたしたち共に働こうと」しておられるからです。今がどんな状況であるとしても、心にしっかり納めていたい言葉です。